

日本独自のコースとも言える河川敷ゴルフ場。フラットな地形を活かし、人為的にレイアウトされた池やバンカーに挑戦心をかきたてられるプレーヤーも多い。造形美に富み、戦略性に優れた、国内で1、2位を競う屈指の河川敷ゴルフ場が熊谷ゴルフクラブ(岡田正一支配人・埼玉県熊谷市大字石原1431)である。小山GC、戸塚CCなどのコースを手掛けた名匠・間野貞吉氏が設計。グリーンはベントグリーンとバミューダグリーンの2面(冬場は両面交互に使用)で、いずれのグリーンも狭く(平均面積約350平方メートル)、速い(スティンプメーターで平均約10フィート)。「バロネス」芝管理機械をフル活用し、さらにコースに磨きをかけるGK・久野栄氏に管理作業機の利用状況を取材した。

## 熊谷ゴルフクラブ (埼玉県熊谷市)

熊谷ゴルフクラブは、コースにさらに磨きをかけてJR高崎線・熊谷駅から18年前からコース車で10分、関越道・東松山インターから18分と、ルトを請負う御G・We st(西山政信社長・東京都足立区綾瀬7-17)の河川敷ゴルフ場のイメージを覆す造形美とクオリティがある。プレーヤーは、その魅力に魅かれ、コロナ禍の中でも、客足は衰えていない。昭和37年に開場し、60年が経過した同クラブの樹木はよ

は、すべてのホールが素晴らしい。ただ、そのコアの魅力を保持し、管理していくには神経を要する。久野GKは「県内の名士が多く」と河川敷ゴルフ場の宿命ともいえる、浸水による

# 「バロネス」フル活用

## 高度なコース管理に貢献

被害がなかったことも、ス製品で占められている(同)。これらの製品は日本クリントン(株)の2グリーン。この管理作業を自走式を進行する同クラブでは、豊川市)が製造する「バロネス」製品を採用し、作業を行っている。「オ

ベレータが操作しやすく、効果的に作業が行え、また小型の芝刈機から自走式、乗用タイプ、さらに、専用機など幅広い品揃えがあり、当クラブの管理機械は「バロネ

LM56GBは、耐久性の強いリールカッターとベントナイフにより、極めてキレイに刈り揃えられる。また、ハンドの

馬力のガソリンエンジンを搭載。3連のリールモアによって、高精度に芝を刈り揃える。リール回転を高速化し、フロント

315GCでもクオリティが高い管理が行える。梅雨明けから、10月中旬にかけて2・3日ほどの刈高(スティンプメーターで約9〜10フィート)

高麗芝のフェアウェイには、乗用5連リールモア「LM2710」刈高(スティンプメーターで約9〜10フィート)

「バロネス」製品をフル活用している。さらに、(株)共栄社が扱っているバンカーの整備には、バンカーレーキ「SPO5A」を使うなど「バロネス」製品をフル活用している。

# ゴルフ場ルポ

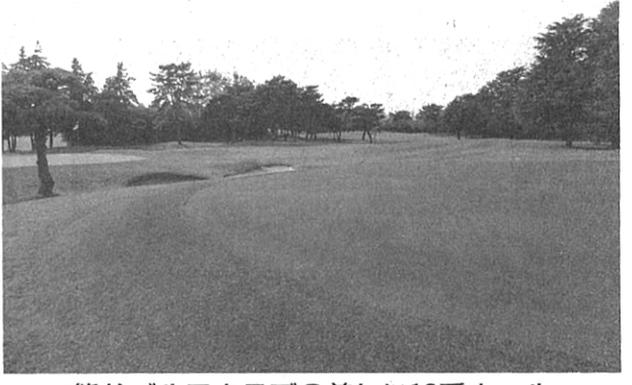


乗用5連ロータリーモアを前に、星野部長(左)と久野GK



パッティンググリーンの作業の模様

「耐暑性に優れ生長も早く、踏圧にも強いバミューダ芝は、乗用のLM315GCでもクオリティに仕上げ使用。10月以降は、LM56GBで1000平方メートルを刈る。同機は、フェアウェイのサッチコントロールには有効で、通気性を高め、病気の発生を抑制することに万全を期しながら、ベント芝とバミューダ芝を交互に使い分けている。いずれのグリーンも面積が狭いことから、ちょっとしたスパイクの傷でも目立つ。「筋縄ではいかない、当クラブのグリーンのメンテナンスは、戦略性を演出している。また、グリーンのアプローションに整え、回転時(機械による踏圧



熊谷ゴルフクラブの美しい18番ホール

最後に、久野GKは「河川敷ゴルフ場のなかで、最も美しく、戦略性のあるコースを目指し、モットーに、コース管理を進めていきたい」と抱負を語ってくれた。